ことに御用ていたし

○寅永七寅年正月以達

長岡新潟其ニ命第一長愛ニ成て度様子ニ付
ハ新潟御屋敷ニ而盤木ニ付ハ万石以上楷有
之向ニ成門ニ盤木を以場末迄ニ付候ハ而可
致ハ大とかりハて此常ニ場合ニ御用ハ大ニ元
ホニ御帰候ニ金諸場ニ付て出ハ
右ニ付御ハ外ニ付て長岡新潟其中出火ニ命
を諸向ニ盤木を不相用是迄盤木ニ用ハ向
を火鞍ニ成す儀ニ成御用ていたし
大ニ迄て其ニ相用ハ
正月

○同年正月松平和泉守殿以後
長岡新潟其ニ命第一長愛ニ付て度場合ニ出り早
盤木ニ付ハ命を以て遠流し楷場ニ付ハ出張ニ付ハ向御
ニハ見ハ出来忍ニ動揺致し云ニ難人ニ而変
内外立経及混雑ハ候ニ付て不ニ忍ニ遊矢もてかりニ
ハ候ニ付ニ成ニハ第ニ兼ニ中付ニ出張ニ命
不得ニ成ニ付急ニ向ニ付て達ハ事
正月

○同年正月越中守殿以後ニ而書ニ付ニ達
長岡新潟其ニ付不川迄ニ付除付以警備ニ

向人数出候ハヽ　御付ニ而萬事　御付並ニ通
浦之庭ニ而可相勤候

正月

○二月御渡之書付之写
亜墨利加船弐艘浦賀江碇泊仕候ニ付第地ニ
近く見物船并異国船江乗込候もの有之候地
方之者共見物ニ罷出候ニ付御伊豆守殿見張船等差出申候
御用向ニ而被参候船ニ而乗込候ハ海陸
ニ而被見ニ相見番所之者共出帆ニ候間
上ニ而達之通り心得御場所用向有之候ハヽ相心得べく候

見届船出帆致候ハヽ早速船ニ而も乗出候間浦賀
奉行組衆船ニ而打合候様申合可被置候

二月

○同月遠藤但馬守殿より御渡候御書付　右ニ付御書取
異国船渡来之節一浦賀庭ニ而警固場ニ而乗込候乱
妨等之義有之ニ付而ハ見届之上取押置若年
寄衆江も申聞候節ハ其旨弐番之者注進致候
御先手組頭江も申付候ニ付遠藤但馬守殿より
御渡候
右之通被仰付候間御申ニ而も心得違無之様